

情報

更生の花は
慈愛の土に咲き



文京区保護司会

第71回 社会を明るくする運動



都立工芸高校 戸川晴馬さん
(文京区社会を明るくする大会のポスター・チラシに採用されました)

INDEX

第71回社会を明るくする運動	2
令和3年度文京区社会を明るくする運動	3
令和3年度文京区社会を明るくする大会 青少年の意見発表	4

令和3年度第1期定期例研修	7
学校紹介 文京区立第八中学校	8
会務報告	10
更女だより	11
ホッと一息 あとがき	12

第71回“社会を明るくする運動” 東京都推進委員会委員長挨拶

日頃より各地域において、犯罪や非行の防止、更生保護などに御尽力されている皆様に、委員長として心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスによる未曾有の危機が続いております。東京都は、この難局を都民・国民の皆様と共に乗り越えるために、全力を尽くしてまいります。同時に、コロナ禍を乗り越えた後、50年、100年先も明るい希望にあふれる「未来の東京」を実現するためには、多様性と包摂性に富んだ持続可能な社会を追求し、「人が輝く」東京を創り上げていかねばなりません。

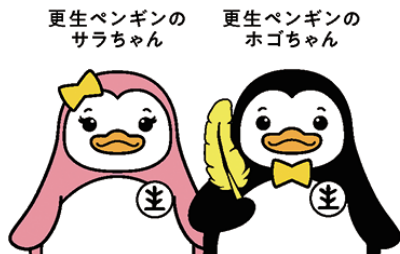
犯罪や非行を防止するとともに、罪を犯した人や非行歴のある少年が孤立することなく更生し再

出発できる社会を築くことは、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現にとって大変重要であります。そのためには、全ての人々がそれぞれの立場で、安全安心な地域社会の構築に向けて力を合わせていく必要があります。

東京都においては、東京都再犯防止推進計画に基づき、民間団体、区市町村及び国の関係機関等と連携して、引き続き取り組んでまいります。

“社会を明るくする運動”に携わる皆様におかれましても、この運動がより一層、充実・発展し、犯罪や非行のない明るい社会を一日も早く実現できるよう、共に力を結集してまいりましょう。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

第71回“社会を明るくする運動”東京都推進委員会委員長
東京都知事 小池百合子



都立工芸高校
後藤 寛太さん



都立工芸高校 服部 心優さん
(文京区社会を明るくする大会のプログラム表紙に採用されました)

令和3年度 文京区社会を明るくする運動報告

文京区保護司会 地域活動部部长 関口 昌彦

昭和24年7月1日、更生保護制度の「犯罪者予防更生法」が施行されたのをきっかけとして、東京銀座の商店街有志が自発的に「犯罪者予防更生法実施記念フェア」を開催した事が刺激となって、「更生保護キャンペーン」が全国的に実施されるようになり、今年で71回目を迎えました。

文京区では、昨年からのコロナ禍の感染予防対策に配慮しながらも、伝統あるこの運動の趣旨を、広く地域の皆様へ呼び掛ける努力を絶やしてはならないと、「文京区社会を明るくする運動推進委員会」を設けて、恒例の東京ドーム周辺広報啓発活動の実施計画を7月3日に予定し、準備して参りましたが、まん延防止等重点措置期間になり、残念ながら中止する事になりました。

その中でも出来る広報活動として、文京区報6月25日号と、区のホームページに社会を明るくする運動の趣旨を掲載することにより、区民の皆様へこの運動への理解を深めて頂く機会と致しました。また、ポスター掲示による広報啓発として、都立工芸高校の生徒さんに依頼して作成頂いた、社会を明るくする運動の原画を区設掲示板・区有施設等に掲示して、地域の皆様に見て頂きました。

「文京区社会を明るくする大会」につきましては、7月11日午後1時30分より、文京区民センター2A会議室にて実施する事ができました。

開会挨拶 文京区保護司会 亀田一良会長

主催者挨拶 文京区社会を明るくする運動推進委員長
成澤廣修文京区長

来賓挨拶 田中としかね文京区議会議長



亀田会長



成澤区長

前半の部

本年の中学生代表3名による意見発表は、事前収録したものをスクリーンに放映し、参加者の皆様にご覧頂きました。

- ・あなたの「思いやり」 茗台中学校2年
- ・ダンスが私に教えてくれたこと 本郷台中学校3年
- ・人は変わる 音羽中学校3年

終了後には、加藤裕一教育長より、総評を頂きました。

後半の部

今年は、東京オリンピック・パラリンピック開催の年である事から、2008年北京オリンピック女子バレーボール日本代表、櫻井由香様に「スポーツの力・バレーボールで学んだもの」をテーマに講演を頂きました。生き生きとした楽しいお話ぶりに、スポーツのもたらす影響の素晴らしさを感じたひと時でした。

文京区青少年健全育成会9地区連絡会 中島正一会長より、閉会のご挨拶をもって今年度の文京区社会を明るくする大会を終了致しました。



櫻井由香氏

コロナ終息の見えない緊張感のもと、東京保護観察所古川観察官にもご出席頂き、当会会員、文京区更生保護女性会、ご案内に参加下さった多くの地域の方々総勢で85名のご出席を頂き、大いに盛り上がった大会となりました。

例年に加えて、準備の変更、計画の練り直し等、区役所福祉部の皆様には多大なご協力を頂きました事を、改めて感謝申し上げます。



都立工芸高校
若林 咲希さん



都立工芸高校
野村 佳央さん

青少年の意見発表



皆

さんは、「思いやり」とはどういうことだと思いますか？
実際に、「思いやりの意味」

を即座に答えられる人は、少ないのではないのでしょうか。

私が考える「思いやり」とは、相手
がその行動によってどういう気持ちに
なるのか考える、ということ。私
は、このことをできるだけ意識して、
話したり、行動したりしています。皆
さんには、自分の考える「思いやり」
がありますか？また、それを意識して
行動しているでしょうか。

私には小学六年生の時に、「思いや
り」について、深く考えるきっかけに
なった出来事があります。そのころ、

あなたの「思いやり」

文京区立茗台中学校 2年

馬場 あかり



私が通っていた塾では、職業について調べ、発表をするプロジェクトを進めていました。私は、人を喜ばすことができる仕事に興味があったため、ホテルのコンシェルジュの方に直接インタビューする機会を得たのです。

その方がとても大事にしていたのが、「お客様を思いやる心」です。ホテルで働くには、ホスピタリティの精神が欠かせません。お客様が何を望み、どうしたら喜んでもらえるか……。そのように、どんなときでも相手の立場に立って、物事を考えているとおっしゃっていました。もちろん、私たち学生の「思いやり」と、ホテルのようなおもてなしの場での「思いやり」では

種類が違うでしょう。ですが、実際に「思いやり」の心を常にもち、働いている人の言葉を聞いて、私は、いつも相手の気持ちを考えて行動しているだろうか、と思うようになりました。ですから、その後からはできるだけ、行動する前に相手がどういう気持ちになるかを考えるようにしています。

「社会を明るくする」には、みんなが笑顔で、楽しくいられることが大切です。全員が楽しく毎日を過ごす、ということはとても難しいことかもしれない。ですが、一人一人が「思いやりの心」を持つことで、そのような明るい社会に大きく近づけることができるのではないのでしょうか。

しかし一方で、悲しい事件も起きてしまっています。昨年は、SNSで誹謗中傷を受けた女性が、亡くなってしまった事件がありました。

自分の意見だけを一方的に主張するのではなく、一度、相手の立場に立って、相手がどう思うのかを考えてみれば、相手がひどく傷つくようなことは言えないのではないのでしょうか。それが積み重なれば、このような事件も起きなかつたはずですよ。

いじめや差別の問題でも同じことが言えます。相手が「嫌だ」と思ったら、それは、いじめです。軽く冗談を言っているつもりでも、相手が、本気で嫌がっているかどうか分からないから、いじりを続けてしまうのでしょ

う。一度だけでも、その人の気持ちを考えてみるのが大切だと思います。

私は、茗台中学校で生徒会に入っています。生徒会では、生徒総会や色々な行事の運営、準備を一生懸命に行っています。ですが、会が終わった後に「つまらなかった」とか「眠くなつた」と、言われてしまうこともあります。もちろん、言っている人たちに、相手を傷つける気持ちは全くありませんが、やはりそういうことを言われると、せっかく頑張ったのにな、という気持ちになってしまいます。他人の気持ちを完璧に理解することはできません。ですからこのように、自分が気づかないうちに相手を不快な気持ちにさせてしまうこともあるでしょう。でも、少しずつ、相手の心を考えるようにすれば、そういうことはきつと少なくなるはずですよ。

「思いやりをもとう」「相手の気持ちを考えよう」ということは、社会で生活していく上で、何度も何度も聞く言葉です。しかし本当に、自分は思いやりをもっているのか、考えてみてくださ。あなたにとっての「思いやり」とは何ですか？

もちろん「思いやりの意味」に正解はありません。ですが、この私たちが生きる社会を、明るく、みんなの笑顔があふれるものにするには、一人一人が、自分の「思いやり」を胸に、生きていくことが大切だと思います。

皆

さんは、「明るい」と言われて、どのような様子を思い浮かべますか？ 私は、一番初めに太陽の柔らかい光に照らされている様子。二番目に、たくさんの人とお互い笑顔で話している様子を思い浮かべます。

昨年度から収まることのない新型コロナウイルスの猛威。家にいる時間が増えた今、好きな場所へ行ったり、遊んだりすることもはばかられ、私は悩むことが増えました。今でも、行き場のないもやもやした気持ちが心のどこかにあります。

今の社会では、人との距離をとる必要があり、人に頼ったり、相談したりする心理的な距離も同時にとっているのではないかと私は考えます。人と話しがしづらいために、行き場のない気持ちや膨れあがり、それが家庭内暴力、非行、犯罪につながるのではないのでしょうか。

私は普段SNSを使っていないため、昨年度の休校期間が終わり、本格的に学校生活が始まった頃は、人との接し方や距離の取り方が分からなくなり、友達にも声をかけずらかったり、思うようにコミュニケーションがとれずらかったりする状態が何週間も続きました。

そんな時、学校の廊下ですれ違ったダンス部の先輩が、「優美子、おはよう！ 久しぶりだね！」

ダンスが私に教えてくれたこと



文京区立本郷台中学校 3年

休校期間中何してた？」

と声をかけて下さいました。その時、私は「おはよう」というたった一言で、自分の存在を認識してもらえたことに、とても安心した気持ちになりました。そして、どんよりとした重い、灰色の世界に、明るい光が入ってくるような気持ちになりました。このことがあってから、少しずつ人と話すことへの不安がなくなっていくのをよく覚えていきます。

「おはよう」「こんにちは」などの挨拶は何気ないけれど、明るく、柔らかく、そして力強い言葉なのだと思います。

「社会を明るくするためにできること」を私なりに考えてみると、まず、みんなが笑顔で挨拶を交わすことが一番大切だと思います。

次に私が大切だと思うことは、好きなことに一生懸命打ち込むことです。私は、今、ダンス部に所属しています。私が一年生の時はまだ同好会でしたが、先生や先輩の熱い思いが実って、二年生の時にダンス部に昇格しました。たくさん先輩たちにお世話になりましたが、いつも明るく、頼りになる先輩ばかりでした。そんな先輩たちの姿は、私たちのあこがれであり、誇りでもありました。二年生の後期から、私は部長として部員をまとめる立場になりました。大会では金賞を目指して、目標に向かってがんばっています。いつも元氣いっぱいダンス部のみんなですが、時に元氣がなかったり、疲れ

通して社会とつながるということです。ダンス部では、毎年、「地域こどもプラザ」というイベントでダンスを発表したり、こどもにダンスを教える交流したりしています。こどもたちからは、「楽しかった」「ダンスを教えてくださいありがとうございます」と声をかけられました。好きなこと、得意なことを通して、感謝され、素直にうれしい気持ちになりました。そしてこれからも、このような活動を通して社会とつながっていきたく強く思いました。

ダンス部に指導員として来て下さっているユミ先生の言葉に「見て見ぬふりをするな」があります。一人一人のレベルを上げるために指導して下さっているユミ先生は、誰かを置き去りにしたりすることを決して許しません。全体のレベルを上げるために指導して下さる、厳しくも優しい、太陽のような先生です。

ダンス部の活動は一つの社会であり、私が本郷台中のダンス部という社会で学んだことは、笑顔で挨拶を交わすこと、自分で決めたことに一生懸命に打ち込むこと、そしてそのことを通して人を明るく勇気づけたりすることの大切さです。来春には私はダンス部という社会、本郷台中学校という社会を卒業していきますが、これからも大好きなダンスという活動を通して社会を明るくしていきたいと考えています。

僕

が小学生の頃、いじめ紛いなことをしていた。僕に悪意はなかった、ただ友達との間の会話の中でふざけているつもりだった。しかし僕がやっていたことは立派ないじめだったと今では思っている。相手の立場にたってみれば、恐ろしく怖いものだったと思う。

僕がいじめをしていることに気づいたのは先生に叱られてからだ。僕は下級生に対していき過ぎたいじり、暴言を言っていた。それが相手に伝わって事件が発覚したのだ。ある日先生に呼び出されて状況を確認され、僕がやっていたことを告げた。

「お前がやっていることは立派ないじめだ。上級生に暴言を言われ、その子はどう思ったと思う？」

僕はそこで初めて気づいた。自分の不甲斐なさに思わず涙が出た。そんなもの流しても罪は償えないことはわかってはいたが嗚咽が止まらなかった。

「この件でお前は積み重ねた信頼を失った、それだけ大きなことを犯したんだ。」

先生の言葉を聞くたびに僕の中で罪の意識が芽生え、取り返しのつかない悪行をしたことへの自責の念と罪悪感で言葉を失ってしまった。それからしばらくは自分が憎くて心が苦しくずつと気持ちが悪く沈んだままだった。そして僕は過去から少しでも目を背けるために現実からも目を背けるようになって

人は変わる

文京区立音羽中学校 3年

みなみひら こうじ
南平 江慈



いった。しかし友達が励ましてくれたい過程で現実にも目を向けるようになっていった。

過去に囚われていたところから、これからについて少しずつ考えるようになっていった。だがなかなか自分を変えたいという気持ちはできず、現実を見て自分を変えたい気持ちと現実から逃げたい気持ちとが両立してしまい心を病むこともあった。しかし僕は生徒会役員になることで大きな一歩を踏み出した。それまでは無責任に遊び呆けていても影響はなかった。しかし生徒会役員となることで僕には責任が生まれ現実を見て責任感をもつようになっていった。そうして周りの環境が変化していくうちに僕も変わっていった。少しでも良い学校になるように、いじめを起さないためにも行き過ぎたいじりを

止めるようになり、自分の言動にも気をつけるようになっていった。そうして僕は周りの環境が変化していくにつれ自分の過去をただ悔やむだけではなく、現実に向き合い少しでも人のために行動するようになった。

僕が生徒会役員になったのは先生に誘われたことがきっかけだった。もし先生が過去に僕がいじめをしてしまったことを知っていて僕に生徒会役員になるという道を示してくれなかったら僕は今でも現実を見ようと思いつた。僕は今でも現実を見ようと思いつた。僕は今でも現実を見ようと思いつた。僕は今でも現実を見ようと思いつた。

僕が過去に悔やむだけではなく、現実に向き合い少しでも人のために行動するようになった。

僕が過去に悔やむだけではなく、現実に向き合い少しでも人のために行動するようになった。

僕が過去に悔やむだけではなく、現実に向き合い少しでも人のために行動するようになった。

た。もし僕が悪い友達とつるんでいたら僕は周囲に不良だと言われていた。真面目で大人しい友達と接していたら真面目だと言われていた。だが不良と呼ばれても真面目だと言われていても僕は適当でズボラな人だと言われるだろう。本質は変わっていかなくても人は変わっていく。だから過去に何をしてきたのかに囚われずぎるのではなく、これからの可能性や本質を見て、変わっていきける環境を作っていくことが大切だと思う。

生きていけば失敗してしまうこともある。大切なのは失敗した人を排除することではなく、多面的にその人を捉え本質を探っていくことだ。自分の親しい人が、一時の誤りで犯罪や非行に走ってしまったとき、あなたはその人を排除しようとするだろうか。あなたはきつと「あいつはいいやつだから。本当はそういうやつじゃない。」と思うのではないだろうか。

人は変わる。変わることができ。自分の体験を通して、僕はそれを信じている。だからこそ、身近に「未来を明るくしたい。」と思っている人がいたら、さりげなく支えられる人になりたい。また、そういう意識を、親しい人だけではなく、他の人にも向ける姿勢の大切さを伝え、広げていきたい。そんな一人ひとりの意識の変化が、わたしたちの社会を明るくしていく道につながっていくことを信じて……。

CFPについて (アセスメントに基づく保護観察)

東京保護観察所 保護観察官 古川 智之

保護観察官や保護司は、これまでも犯罪や非行の原因、また、問題点だけではなく、改善更生を促進する要因(強み)に着目した処遇を実施してきました。しかし、これまでそれら原因や背景、強みを分析する方法論は共有されてはおらず、個々の経験に基づく、個人的な技能や考え方に偏っていたと思われる。そこで、保護局は、各種先行研究の調査、事例分析、統計分析、有識者や保護観察官の意見聴取を行った上で、新たなアセスメント(見立て)ツール(道具)であるCFP(Case Formulation in Probation/Parole)を開発し、運用を開始しました。このツールは、再犯リスク(危険)の高低を評価するとともに、犯罪や非行に関連する問題点と強みを抽出し、犯罪や非行のプロセス(過程)を検討するものです。

CFPでは、保護観察対象者の属性や犯罪・非行歴等の再犯・再非行のリスクに統計的に影響する予測因子をチェックし、再犯・再非行の統計的な確率の高さについて、高・中・低のいずれかに判定します。判定結果は、対象者の処遇区分(S・AA・A・B・C)を決定する際の基準の一つとなります。

更に、CFPでは、犯罪や非行に関連する要因として、①家庭②家庭以外の対人関係③就労・就学④物質使用⑤余暇⑥経済状態⑦犯罪・非行や保護観察の状況⑧心理・精神状態の8つの領域ごとに評価します。主任官はそれら8要因のそれぞれについて、問題と強みを検討することとし、着目すべき重要な事項を具体的に例示します。

本研修資料の事例について言えば、①両親が離婚→①実母の監護能力不足→③⑧発達障害による

学校不適応→②不良交友→④大麻使用→⑥遊興費目的で万引き→⑦換金(手口の学習)→本件非行(窃盗)で逮捕というのが問題として捉えられます。また、逆にスポーツが得意であることや過去に転職を繰り返しているものの、職人系の仕事に就けているということは本人の強みだと考えられます。

更に、実母が本人の発達障害を理解していることについても間接的な強みだと言えます。そんな実母に対し、本人も実母のために二度と非行はしたくないと決意していることも強みと言えるでしょう。これら対象者の「問題」と「強み」をとりまとめ、主任官はそれらを保護観察の実実施計画に反映させます。具体的には、どれくらい手厚く関わるか(処遇密度)、何を指導(支援)するか(指導監督及び補導援護)、どのような関わり方をするか(保護観察実施上の留意事項)等についてです。必要に応じては、必要な社会資源に繋ぐことも重要です。

アセスメントとは、他人や物事を客観的に評価・分析するという意味であり、簡単に言えば「見立て」です。我々支援者には、対象者をいち早く「何者であるか」理解し、それらの更生にとって何が必要であるか、見極める能力が求められます。

保護司の皆様方には、どうか対象者に対する想像力を膨らませ、対象者が「何故、犯罪や非行を起こしたのか」、分からない部分もあるでしょうが、それでも分かろうとする姿勢を持ち続けて頂き、我々とともに前向きに悩み続けて行ってもらうことを期待しています。

さわやか八中 はつらつチャレンジ

地域とともに

文京区立第八中学校長 土井 佳奈

本

校は昭和二十二年四月一日に、新制中学として文京区立汐見小学校内に開校されました。その後、昭和二十六年に文京区立文林中学校の敷地に第八中学校の新校舎が完成し、現在の第八中学校の場所には昭和三十五年に移転が完了しました。

第八中学校の一带は、谷根千（谷中・根津・千駄木）といわれる下町情緒豊かな街並みと人情味あふれる地域の真ん中に位置しています。二十年以上スローガンとして受け継いできた「さわやか八中」がとてもよく似合う和やかな生徒達は、この地域の愛情に育まれています。そして、明るくて人懐っこい生徒と教職員は、親しみの中にも礼儀を尊重する良好な関係を現在も築いています。

平成十五年度から文京区に導入された「学



校選択制」に伴い生徒数は減少しましたが、小規模校として少人数の良さを活かした創意工夫を重ねてまいりました。各学年一クラスを二つに分けできる限りの授業を少人数で実施するスタイルを取っています。今年度は嬉しいことに48名の新入生を迎え、1年生は2クラスでスタートしました。

七十五年の歴史を誇る本校ですが、昨年度からの新型コロナウイルスの猛威に、これまでの経験したことのない学校対応が必要となりまし

た。新しい生活様式の感染対策の基本は、①身体的距離の確保②マスクの着用③手洗いです。本校でも生徒の三密（密接・密集・密閉）を回避するため、教室内の机の間隔を2m以上空けましたが、感染対策を取る上で、少人数学級の教室環境は非常に有効でした。また毎朝の生徒玄関でのサーモグラフィによる体温チェックと健康観察は、一人一人に声をかけながら丁寧に実施しています。今年度に入っても感染者数はなかなか減少せず、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置をくり返す状況で、行事の実施も危ぶまれましたが、運動会を日頃の体育授業を公開する「体育発表日」に変更し、学年ごとの競技を工夫して実施することができました。

特別支援学級開設

令和2年度より文京区立中学校で4番目の特別支援学級（知的固定学級）が開級しました。多様性を理解し、お互いを思いやり認め合える第八中学校を目指して日々取り組んでいます。今年度は7名の入学者を迎え、3学年併せて13名と一緒に学んでいます。学級での学習に加え、「共に学び、共に育つ」ことを大切にした交流及び共同学習を進めており、同じ学年の仲間と過ごす時間は、お互いの成

長のために有意義なものとなっています。

はつらつとチャレンジする学校を目指して

地域に根差した「さわやか八中」の通り、生徒も保護者も八中に通ってよかった！と心から思える学校を目指しています。さらに元気で明るく「は」はつらつと、何事にも「ち」チャレンジできる「は・ち」八中生の育成に力を注いでいます。

特色ある教育活動のひとつに、プレゼンテーション能力向上に向けた取り組みを行っています。各学年で講師を招いてプレゼンテーションのコツを学び、「人前で話す力」や「コミュニケーション能力」を育成していきます。講師の指導により、各教科や総合的な学習の時間でのスピーチ内容も向上してきました。



また、昨年度は第八中学校のオリエンピック・パラリンピック教育が評価され、東京都より「子供の体力向上推進優秀校」として表彰を受けました。今年はさら



に体育科授業の充実を図るため、文京区教育委員会教育センターの体力向上事業である中学校保健体育科専門講師（テクニカルトレーナー）モデル校として、専門的な技術指導と運動習慣の確立を目指していきます。その他、東京都教育委員会が実施する「性教育の授業」にも参加し、産婦人科医による正しい性の知識と倫理観を育む取り組みを行いました。

現在、Society5.0時代の到来を見据え、従来の指導方法に捉われない新しい授業スタイルの創造が迫られています。本校でも一人一台のタブレット端末を活用した授業を積極的に進めています。区で導入しているアプリケーションソフト等を活用し、会議やプレゼン、共同作業などハイブリッド授業にも対応できる研究も進めているところですが、また、英語科では生徒の端末にインストールされたデジタル教科書を活用し、一人一人の学びに合わせた実践も行っています。今後、タブレット端末が鉛筆や定規のような文房具の一部として、日常的に活用できる学習道具になるよう取り組んでいきたいと考えています。

これらの取組は第八中学校のホームページに毎日掲載するようにしています。保護者や地域の方々にも第八中学校の様子をリアルタイムで発信し、より開かれた学校づくりを推進してまいります。



会務報告

■令和3年度

■文京区社会を明るくする大会

令和3年7月11日(日) 13:30～15:30

於：文京区民センター2A

出席者：37名 成澤区長他50名

成澤区長挨拶 3名の中学生による意見

発表

女子バレー元日本代表櫻井由香氏による

講演

(関口 記)

■正副会長会議

令和3年6月1日(火) 18:30～20:30

於：伊藤宅

出席者：6名

社明運動の計画検討

ブロック別保護司組織運営連絡協議会に

ついて、他

(伊藤 記)

令和3年7月1日(木) 18:30～19:40

於：文京シビックセンター5F会議室A

出席者：8名

社明大会最終打ち合わせ

ブロック別保護司組織運営連絡協議会準備について

(伊藤 記)

■理事・役員会

令和3年6月24日(木) 18:30～19:30

於：大原地域活動センター2F

出席者：23名

社明運動7/3中止、社明大会7/11実施

ブロック別保護司組織運営連絡協議会について、他

(伊藤 記)

■研修部会

令和3年7月11日(日) 12:00～13:00

於：文京区民センター2F

出席者：2名

定例研修配信動画の連絡方法を検討

観察所からのDVD等の視聴方法の検討

(市川 記)

■地域活動部会

社会を明るくする運動打ち合わせ

令和3年5月10日(月)～5月12日(水)

のうち2日間

於：茗台中学校校長室 他

出席者：1名 福祉政策課2名

社会を明るくする大会での生徒さんの意見発表を依頼

(関口 記)

令和3年5月13日(木) 14:00～14:30

於：文京シビックセンター11F

出席者：4名 福祉政策課3名

都立工芸高校の生徒さんのポスターを選

定

(関口 記)

令和3年5月14日(金) 16:00～16:50

於：文京シビックセンター11F

出席者：1名 福祉政策課2名

社会を明るくする運動推進委員会構成30

団体に送る書面表決の文章について

(関口 記)

令和3年5月17日(月)～6月23日(水)

のうち4日間

於：文京シビックセンター11F 他

出席者：1名 福祉政策課2～3名

東京ドーム周辺広報啓発活動について打

ち合わせ

(関口 記)

令和3年6月28日(月)～7月9日(金)

のうち3日間

於：文京シビックセンター11F

出席者：1名 福祉政策課2～3名

社会を明るくする大会打ち合わせ・確認

(関口 記)

■広報部会

令和3年6月4日(金) 14:30～16:30

於：文京区民センター4A

出席者：11名

情報571号校正及び会議

情報572号編集及び会議

(山田 記)

令和3年6月25日(金) 14:00～15:10

於：文京シビックセンターシルバー会議

室A

出席者：10名 更女5名

情報571号発送及び会議

(山田 記)

■保護司が参加した行事

事務担当者連絡協議会

令和3年6月2日(水) 13:30～15:50

於：東京保護観察所1F 処遇室

出席者：2名

事務関連の説明会

(伊藤 記)

■オンライン講習会

令和3年6月3日(木) 14:00～16:00

於：自宅でZOOM

愛着障害がこころと行動に与える影響

講師：宮本信也氏

(堀内 記)

■「文の京」安全・安心まちづくり協議会

令和3年7月30日(金) 10:00～11:30

於：自宅でZOOM

文京区の犯罪発生件数・火災・事故件数

について

(大橋 記)

■新任保護司

令和3年9月17日付

駒込班 菊川 清

大塚班 真鍋 匡史

大塚班 出村 美子

「男の料理教室」 カレーづくり

本富士地区 岡崎 礼子



令 和3年4月21日（水）に「男の料理教室・カレーづくり」をステッ
プ竜岡で開催致しました。

「男の料理教室」は支援活動の一環として平成27年10月にスタート致しました。コロナ禍で多くの行事が中止となる中、施設のご理解とご配慮のもと、時田会長と本富士地区6名の更女で行

わせていただきました。いつもは寮生の皆さんと賑やかに和気あいあいと作業をしていましたが、今回は少人数でなるべく静かに作業しました。大きな鍋二つと格闘しながらも心を込めて具だくさんのカレーを仕上げる事が出来ました。寮生の皆さんには時間をずらして食べていただきました。

参加した更女のアンケートの一部をご紹介させていただきます。

○食べてくださる皆様のことを思いながら作業を致しました。寮生と一緒に作ることは出来ませんでした喜んでいただけると嬉しです。

○今回3度目のカレーづくり参加です。更女だけのカレー作りは初めてなので、一緒に作る寮生の方の有り難みをひしひしと感じました。ガス台の上の鍋をかき混ぜる大変さ、男子の遅しさを感しました。

○カレーを食べてくださる寮生の皆さん、会場の提供など用意をしていただいた竜岡の皆さん、カレーを作る更女、時間差はありますがそれぞれが繋がっていると思います。



「社会を明るくする大会」に参加して

大塚地区 柑本 美和



飛 沫感染防止のためにアクリル板・マイクのアルコール消毒を徹底的に行うなど、周到な新型コロナウイルス対策が講じられる中、「令和3年度 文京区社会を明るくする大会」が、7月11日（日）に文京区民センターで開催されました。

例年と異なり、事前収録された動画を放映する形式で行われた区立中学の生徒さん達の意見発表は、自身の経験を踏まえつつ、社会を明るくするために必要だと思うことを真直ぐに訴えかけてくるものでした。生徒さん達の言葉一つ一つに領きながら、制限の多い学校生活の中でも、彼らが前向きな気持ちでいてくれることに救われる思いがしました。

そして、周りの人への感謝を忘れず、自分を信じ、日々、一生懸命生きるという当たり前のことが、道を切り開いていくために重要であると語ってくださいました、元オリンピック女子バレー日本代表の櫻井由香さんのご講演は、コロナ禍でなければ、子供たちに直接に聞いてほしい、心に留めておきたい言葉で溢れていました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、経済社会活動は抑制され、他方で、感染収束の兆しは見えず、先行き不透明感が蔓延しています。そんな閉塞感漂う今だからこそ、私たちは社会を明るくすることの重要性を身に染みて感じています。準備・運営に携わられた皆様の御配慮が随所に感じられた大会への参加は、鬱屈した気分になりがちな日々の中、清々しい気持ちを持つことのできた貴重な時間となりました。



富坂班 市川 秀子

私は保護司に委嘱されてから現在21年目となりました。その間いろいろな対象者を受け持ちました。基本は月に二度の面接です。

面接では相手の話を傾聴し共感を心がけていますが、無口な方の時は困ってしまいます。何とか相手の趣味を聞き出したり、休みの日の過ごし方を伺いますが、ほとんどの方が「する事がない」と言います。そんな時は、近くに図書館、植物園、美術館がある事を伝えました。

ある方は美術館に行ったことがないので一緒に行ってほしいとの申し出がありました。直ぐに主任官に許可を得て美術館へ行き静かな中庭で面接をすると、その方は

いつもと違い自ら生い立ちを話してくださいました。花鳥画を観た後に緑の多い開放的な屋外での面接は、いつもと違う気持ちになったのでしよう。

帰る途中で「趣味ができました」と話してくれた顔は今でも忘れられません。

対象者との最後の面接を終えて観察期間が明けた時は、保護司としてホッと一息できる時です。



大塚班 細田 典秀

街中でウォーキングの途中、少し疲れた頃合いに「ホッと一息」、短い時間だけ小休止できる「街中ベンチ」があれば良いと思います。立派な物でなくても、工夫して設置して欲しいです。

最近では、信号機が無い横断歩道で、停止してくれるドライバーが増えたように感じます。私は、前

方が空いているのに、スピードを緩め停止してくれることに感謝、軽く会釈をして横断します。蛇足ですが、道路交通法によると、その場合、ドライバーの一時停止は義務とあります。

さて、自分が運転する時は？と考えます。ブレーキを踏む一瞬に迷いはないか。さらに、後続車にとって想定外の減速は迷惑ではないか。追突される危険性はないか。等々。

自動車も自転車も含め、歩行者も、交通ルールを守ると同時に、お互いに相手を気遣う気持ちが安全・安心につながると思います。私はクルマ通勤。「一息・深呼吸」スピードは控えめに安全運転を心がけます。



あとがき

開催が危ぶまれ多くの議論が交わされた東京オリンピックも日本史上最高数のメダルを獲得して終了し、間もなくパラリンピックが開催されます。アスリート達の日々重ねられるひたむきな努力と彼らに関わられた多くの関係者・ご家族の皆様のご協力が実を結んだ結果と拝察いたし頭の下がる思いで一杯です。パラリンピックでもパラアスリートが無事一杯のパフォーマンスができるよう心から応援しお祈りします。

また、現在緊急事態宣言が延長され今まで重症化は少ないとされていた子ども達の間にも感染者が増加している状況です。まだまだ目に見えない感染症との戦いは終わりが無いように思えます。最前線で戦っていただいている医療関係者の方々をはじめ対策等に関わられておられる皆様に感謝しつつ自分ができる感染対策を心がけてまいりますと存じます。このような中本誌へのご寄稿を頂戴しましたことに感謝申し上げます。

根尾 英子

〈広報部〉 森山 堀内 山田 大橋 時田
米岡 浅川 根尾 岡崎 西川
塩川 市原

情報 第五七二号

編集 文京区保護司会 広報部

発行人 文京区保護司会会長 亀田 一良

事務局 文京区春日一―一六―二一

文京区役所福祉政策課内

印刷所 企画・宣伝協同組合

エコフィールド事業本部